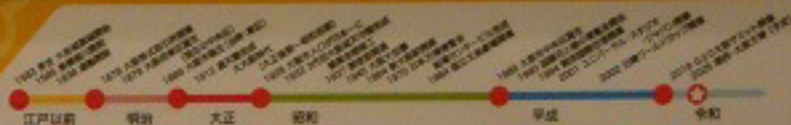


船場のあらし

最寄駅: オオサカメトロ 各線 本町駅・堺筋本町駅・北浜駅・淀屋橋駅・心斎橋駅・長堀橋駅
京阪電車 北浜駅・淀屋橋駅



船場と北浜の高架駅(平成前期)



資料写真(明治2年)

● 現在(令和2年3月)の船場センタービル
船場エリアの中心を構築する「船場センタービル」は、地域のランドマークとして、経済、交通、物流の要として存在しています。



船場センタービル 完成

● 建設中の船場センタービル
昭和45(1970)年の大阪万国博覧会開催に合わせ建設が進められている様子。道路とビルが一体となった、珍しい構造となっています。



船場センタービル 完成

● 船場センタービル建設予定地
「築港深江津」船場地区の様子。写真中央の区画にビルが建設されました。
<昭和44(1969)年以前>



資料写真(明治後期)

● 船業会館
昭和3(1928)年に、「日本船業の進歩と発展を図るため」を目的として船業倶楽部を発足し、船業会館建設を決め、昭和6(1931)年に完成しました。



大阪市の風景(明治)

● 北船場市街地の様子
「大阪行幸記念空中写真場」より
<大正後期>



● 船場地区位置
船場は、大阪城のちょうど西側にあり、堀川の水運を利用して発展しました。
「新町名人大阪に市全圖」より
<明治33(1900)年出版>

大阪の経済の中心「船場」

大阪城築城のために、その働き手が住んだといわれる「船場」。大坂冬の陣のあと、江戸期に入ると、徳川家は大阪城再建と大阪再興に向けて、全国から職人など、まちづくりの担い手を呼び寄せました。京都の伏見から移り住んだことに由来するといわれる「伏見町」はわかりやすい例で、信長や秀吉など旧勢力に関わりの深い伏見桃山城が隈城になったという歴史の裏返しでもあります。



船場本町交差点の空撮
<昭和6(1931)年>
大阪市立図書館 所蔵

その後、船場周辺には船宿、料亭、両替商、呉服店、金物屋などが次々に誕生し、わが国の経済、流通の中心地となり栄え始めました。船場は、高都大坂の礎を築きあげ、大阪は「天下の台所」として繁栄していきます。



コラム

船場は、東は東横堀川、西は西横堀川(阪神高速道路北回り線)、北は土佐堀川、南は長堀通(旧長堀川)の範囲をいいます。

「船場」の由来は、東横堀川などの川や堀に囲まれ、船が行き交うという漢字の通りの「船場」が広くイメージされています。それ以外にも大阪城の西に位置し、船の修繕をする「船場」から船じたという説や、馬を洗う「洗馬」から船じたという説があります。



資料提供: 船場地区まちづくり委員会、大阪市立図書館、大阪市中央区役所、大阪市中央区歴史文化センター、大阪市中央区歴史文化センター、大阪市中央区歴史文化センター、大阪市中央区歴史文化センター、大阪市中央区歴史文化センター、大阪市中央区歴史文化センター、大阪市中央区歴史文化センター、大阪市中央区歴史文化センター、大阪市中央区歴史文化センター

大阪市中央区役所 中央区魅力発信 / いま、むかしにびわいV(ベル)

ほかにも穴山の情報を掲載した「わがまちガイドナビ」をご覧ください

